

第 42 回協議会・第 48 回幹事会の議事要旨

沖縄県公共交通活性化推進協議会

令和 7 年 8 月 1 2 日（火）

1. 第 42 回協議会 議事要旨

日時：令和 7 年 3 月 26 日（水）10:00～12:00

場所：那覇市商工会議所ホール

報告

(1) 第 41 回協議会・第 47 回幹事会の議事要旨について

発言者	主な指摘・意見	回答
池田会長	内容について意見はあるか。	(一同) 異議なし。

(2) 基幹バスシステムの導入に向けた取組について

発言者	主な指摘・意見	回答
琉球バス交通 小川委員	- 中乗り前降りに関しては、時間短縮の可能性は大いにあると思うが、他地域の事故事例も踏まえると、安全性の確保が問題となる。バス車両が正着できない場合もあるため、乗降時の乗客の安全性に関しては配慮が必要ではないか。 - 協力型バスレーンの候補 2（伊佐～北谷）は、昨年度、県（観光）の実証運行の際でも利用者は少なかった。基幹バスルートの候補 1 に比べると優先度は低いのではないか。	(事務局) - 中乗り前降りの安全性に関しては勉強会の中でも意見をいただいております、引き続きバス事業者勉強会の中でもしっかり検討していきたい。 - 実証実験の候補については、バスや自動車の速度、バス利用者の状況等も見つつ、また道路管理者とも意見交換しながら実施の方法等について引き続き検討していきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 運輸部 星委員	- 統計上、乗降方法の違いによる安全上の優位性に大きな差はないと考えられるが、乗降方法は統一しておいた方が混乱は少ないため、利用者が安心して余裕を持って利用できる環境整備を段階的に進めていくことが必要である。 - 段階的に整備する際は、混乱を少なくするよう配慮しつつ、安全性を確保しながら、効率性にも貢献できるよう検討頂きたい。	(事務局) 安全性の視点が最も重要と考えられるため、バス事業者とも相談しながら検討していきたい。
オフィス遊 幸地委員	お年寄りや車いすの方が利用する日をイベント的に設けることで、出かけやすくなったり、乗るための訓練等に繋がりを、安全性が確保されるのではないか。	(事務局) 乗り慣れていない方への配慮が重要と考えており、特別支援学校へのバスの乗り方教室の取組と併せて何が出来るか検討していきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
琉球大学 神谷委員	● 西普天間の琉大病院移転について、当初想定と異なる状況と聞いているためコミュニケーションを図っていただきたい。 ● 遅延証明について、学校個別の判断となっているふしがあるため、県の教育庁の見解を確認しておいたほうが良い。 ● 統合時刻表については、県のわった～バス党 HP の中で表示されても中々そこまでたどり着かないので、広く見てもらえるよう工夫していただきたい。 ● 協力型バスレーンを実装する際には、レンタカー利用者を含めた外国人観光客などに対し、どのように表記、周知していくのかも念頭に検討を進めて頂きたい。 ● 候補 2 は北谷町との関係となるが、北谷町は本協議会に入っていない中でどのように進めていくのか教えて欲しい。 ● また、北谷ゲートウェイは実証実験という位置付けだったと思うが、今後も継続されるのであれば候補 2 は有用と思われるが、その点を踏まえて検討を進めていただきたい。	(事務局) ● コミュニケーションは密に図っており現在の状況は聞いている。4 月の医学部移転後もあるため、引き続き情報共有を図っていききたい。 ● 学校により対応が異なるのではないかと感じており、教育庁にも確認していききたい。 ● 先ずはわった～バス党 HP を活用していくが、好評であればバス事業者の意見も聞きながら、広げていくことも検討していききたい。 ● レンタカー利用者を含めた外国人へのお願い方法は重要と考えられるので検討していききたい。 ● ご指摘のとおりであり、その取扱いについては 5 市村の意見も踏まえて整理していききたい。 ● 北谷ゲートウェイは県の他部局所管となるので、その位置づけ等について確認しながら検討していききたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
池田会長	協力型バスレーン取組事例において、トラブルは発生していないか。	(事務局) 金沢の協力型バスレーンは、規制を伴わない中、立て看板、立哨、バスマスク等をお願いしており、トラブルについては聞いていない。現地を見たところでは、バスに譲る一般車両も見られたため、継続しながら効果を高めていくことが重要と考えている。

(3) TDM（わった～バス利用促進乗車体験事業等）の取組について

発言者	主な指摘・意見	回答
琉球バス交通 小川委員	- バス無料実験や特別支援学校への取組は大変良かったと考えるため、継続して取り組んで頂きたい。 - バス無料実験の広報にあたり、自社への利益誘導と受け取られポスターの設置等を断られたケースが発生した。地域の方へ公共交通活性化の重要性を理解いただけるよう県の力を借りたい。	(事務局) 情報がうまく伝わっていない部分も見受けられたため、次年度も実施の際は広報を強化していきたい。
バリアフリーネットワーク会議 親川委員	- 支援学校での乗り方教室やバス無料化の取組に対して満足している。 9月のバス無料時には大人の障がい者においても、沖縄市循環バスから路線バスへ乗り継ぎができたことは良い経験であったので、本取組を継続して頂きたい。 - バス利用者の9月の増加分について、南部、中部等のエリア毎の分析は行っていないか。今後のヒントになるのではないか。 - 障がいを持っている方は総じて免許を取得できないため、移動は公共交通に頼らざるを得ないことを踏まえて取組を継続して頂きたい。	(事務局) - バリアフリー対応の取組は重要であり、次年度も連携して取り組んでいきたい。またノンステップバス等の導入も今後事業者と連携しながら進めていきたい。 - カウント方法が整理券であるため、方面別の分析はできていない。補完する形でバス停毎のカウント調査やWi-Fi等の調査、ビッグデータ分析を行っているため、次年度以降確認していきたい。

議事

(1) 規約の改正について

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
池田会長	● 内容について意見はあるか。	(一同) ● 異議なし。

(2) 令和7年度事業計画（案）及び予算（案）について

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
池田会長	● 内容について意見はあるか。	(一同) ● 異議なし。

その他意見

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 開発建設部 中原委員	● 今回、規制を伴わない協力型バスレーンの検討など、前向きな取組にとりかかれたことに感謝している。 ● 国としても、現在取り組んでいる名護、胡屋のバスタプロジェクトの成功のためには、バスレーンの整備など、バスの定時性を高める取組、過度な自動車交通に頼らないための公共交通の利活用に向けた取組は必要であるため、連携して取り組んでいきたい。 ● バスレーンをはじめ道路空間再編は道路管理者の主体的な取組が必要不可欠と考えており、沖総局開発建設部、国道事務所でもしっかりと協力させていただくので、県の内部でもそういった意識で取り組んでいただきたい。 ● バスの中乗り前降りの場合、植栽やガードレールで二つの扉を開けられないバス停もあるので、そういった取組も含め、道路管理者側で主体的に関わらないと進まない取組もあるため、連携して対応していきたい。	(事務局) ● 道路管理者においても、主体的に取り組んでいく必要があるとの心強い意見をいただき感謝する。 ● 県においても土木建築部と連携して取組を進めていきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
オフィス遊 幸地委員	公共交通利用促進について、北谷、名護、本部等、他の地域への声掛けはいつ頃を想定されているのか教えて頂きたい。	(事務局) 平成 19 年度から活性化推進協議会を設置し基幹バスに関する取組を実施してきた。令和 5 年度には沖縄本島を対象とした地域公共交通協議会を立ち上げており、これと上手く連携して進めていきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
琉球大学 神谷委員	● 地域公共交通総合連携計画、地域公共交通計画、リ・デザイン会議、バスタ事業等、公共交通に関する計画が様々あるため、全体を俯瞰して見える化して頂きたい。 ● 特別支援学校の取り組み等も重要であるという意見も踏まえると、学校側が主体的に取り組む必要があると考える。そのうえで県が支援をすることが良いと考えるため、教育庁に話をされる際は是非ご検討いただきたい。 ● バス事業者へのお願いとして、障がい者手帳のスマホ（ミライロ ID）について、バス運転手が知らないため乗車できないケースがあると聞いている。是非、周知徹底して頂きたい。	（事務局） ● 法改正が重なっているが、法定計画としての位置づけは変わっていないと理解しており、それを更新しながらこれまで歩んできている。 ● 現時点では現行の計画が達成できるよう取り組んでいきたい。 ● 本協議会での基幹バスの取組は、県内で先行した取組であるため、引き続き本協議会で積極的に議論を進めながら、横展開していきたい。また、県の地域公共交通協議会とも連携して、全体の見える化も進めていきたい。 ● 真和志高校は学校主体で取り組まれている状況である。こういったモデルケースの定例化やカリキュラム化を目指し、密に連携・協力していきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄県商工会議 所連合会 福地代理	近年ではキャッシュレス決済も普及しているため、OKICA推進するのであれば、普及促進に向けて取り組んでいただきたい。	(事務局) - 次年度の実証実験ではモノレール利用者も対象と考えており、OKICA システム活用する方向で検討を進めている。 - OKICA に関しては、他の委員会でも議論しているところであり、しっかり意見交換を進めていきたい。 - バスは乗降に時間がかかるため、キャッシュレスを促進したいと考えている。官民で連携が重要であるため、次年度協力等についてご相談させていただきたい。
沖縄総合事務局 運輸部 星委員	- 活性協でこれまで議論しているが、ここ 2 年半程で政策のクオリティが上がったと感じている。そのような中、基幹バス導入は定時速達性向上の取組を様々なインフラと連携して取り組むことは重要であり、データに基づきながら再編を進めていく必要がある。 - バス実験で一部利用者の交通選択に変化が見られたが、その効果は一時的であったため、インセンティブや環境整備をさらに強化し、持続可能な変化を促すことが求められる。	

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 運輸部 星委員	● 普通免許を持たない若年層や障害を持つ方々が自発的に公共交通を利用し、発信することが、事業の持続発展に繋がると考えている。 ● 多くの企業で通勤手当支給が不十分な現状を改善するため、適切な財源確保と産業構造改革が必要であり、これが人材の確保と収益再配分に寄与する。 ● 経済学的な分析からは、魅力ある場所というのは自由度、代替性、予見性を有してる。このため、モノレールとの連携、自転車との連携等も念頭に取組を進めていただくと、より道路空間や公共交通を良い形で分散して使うことになり、自動的に調整するような仕組みに変わっていくのではなかと期待している。 ● 新たなキャッシュレス・MaaSシステムの開発を検討中であり、低コストなインフラ（Wi-Fi ルーター等）による自動運賃収受やゾーン運賃設定などを実現し、具体的な実証実験を来年以降沖縄で開始できるよう検討・調整している。	
オフィス遊 幸地委員	● 今日の議論の中での意見だが、さらに思い切った施策として OKICA を無料で配布してはどうか。	

2. 第48回幹事会 議事要旨

日時：令和7年7月25日（金）10:00～12:00

場所：那覇市商工会議所（中小企業振興会館）ホール

議題

(1) 沖縄県公共交通活性化推進協議会規約の改正（案）について

発言者	主な指摘・意見	回答
幹事長	内容について意見はあるか。	(一同) 異議なし。

(2) 令和6年度決算及び監査報告について

発言者	主な指摘・意見	回答
幹事長	内容について意見はあるか。	(一同) 異議なし。

報告

- (1) 第 47 回幹事会・第 42 回協議会の議事要旨について
 (2) 基幹バスシステムの導入に向けた取組について
 (3) P T 調査からみた基幹バスシステムの有効性について

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 開発建設部 伊藝幹事	- 資料 4 の協力型バスレーン実証実験の候補路線・区間は資料 P28 に示されているが、今後の取組方針で候補 2（伊佐～北谷）を外した理由を教えてください。 - 協力型バスレーン実証実験は、既存バスレーン区間も併せて実施していく理解でよいのか。 - 関係する区間で事業も進めているので、協力できるところは協力していきたい。 - 国道 329 号の那覇から東側区間では、現在与那原バイパスや南風原バイパスの事業を進めているが、これが完成すれば現道から交通の転換も期待されるので、バスレーンや協力型バスレーンについてご検討いただければと思う。	(事務局) - 北谷方面に関しては、本協議会に北谷町が含まれていないこともあり、今後は沖縄県地域公共交通協議会で意見交換等を進めていく予定である。また、国道 329 号与那原方面についても、沖縄県地域公共交通協議会の中で議論を進めていくことを考えている。 - 既存バスレーン区間としては、候補 3 の浦添拡幅区間が示されている。既存バスレーン区間は、朝夕はバスレーンが実施され、一部区間ではバスレーン不連続区間も残っていることもあり、伊佐までの区間についても併せて検討していきたい。資料については修正していきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 開発建設部 米須幹事	協力型バスレーンの事例で金沢市の社会実験が示されているが、恒常的に実施しているところがあれば教えて欲しい。また、金沢市の社会実験の結果や評価についてもわかれば教えて欲しい。	(事務局) - 昨年度調査した事例の中では恒常的な事例は見当たっていない。県内においては、これまでバスレーンが延長された区間においても、社会実験から本格運用に繋がってきた経緯があるが、他府県の事例については引き続き調査していきたい。 - 金沢市社会実験の結果に関しては、昨年度視察した際には、車がバスに車線を譲っているケースも見られるといった話は聞いているが、道路交通への影響など把握できていない点もあるので、今後ヒアリング等を通して確認していきたい。
沖縄総合事務局 運輸部 崎濱幹事	統合時刻表の検討を進められているが、のりもの NAVI ではスマホアプリを2025年7月末でサポート終了の案内が出ている。今後、接近案内や時刻表等はスマホアプリから見られなくなるのか教えて欲しい。また、のりもの NAVI の運営主体についても教えて欲しい。	(事務局) 今後については、2025年8月より LINE 公式アカウントにてご利用可能なサービスを新たに開始する予定と聞いている。のりもの NAVI そのものは継続して利用できるものと認識している。なお、のりもの NAVI の管理運営については現在沖縄 IC カード(株)が担っている。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄県土木部 道路街路課 砂辺幹事	- 協力型バスレーンについて、金沢市では 9 時～17 時となっているが、今後沖縄県で実施する実証実験の時間帯を教えて欲しい。 - 先ほど、既存バスレーン区間でも実施されるとの話があったが、そことの関係はどのように考えているのか。 - 協力型バスレーンは、夕方の時間帯での実施は考えているのか。	(事務局) - 協力型バスレーン実証実験の時間帯は、案の段階ではあるが胡屋から伊佐向きについて、朝の 7 時 30 分～9 時の導入をまず初めにできないかと考えている。 - 候補 1 の区間に関しては、朝ピーク時の協力型バスレーンを実施することで、既存のバスレーン区間との連続性を確保したいと考えている。既存バスレーン区間については、これまで候補として記載はしていないが、今後バスレーン W T 等の中で効果的なやり方を議論していきたいと考えている。 - 朝ピーク時の混雑状況を踏まえると、まずは朝の時間帯での実施を考えているが、その実証の課題等を踏まえた上で次のステップとして夕方時間帯へ展開していくなど、段階的な実施を考えている。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 道路管理課 米須幹事	資料５の PT 調査結果でモノレールの分担率が示されているが、現在てだこ浦西駅でパーク＆ライド駐車場の人気が高いと聞いている。今後幸地 IC も整備されてくると、交通結節点としてのポテンシャルも高まっていくと考えている。そこで、今回の PT 調査で交通結節点の調査を実施しているようであれば教えて欲しい。	(県都市計画・モノレール課) - 今年度に入りパーク＆ライド駐車場は、上限の 800 台に達するなど非常に好調となっている。また、一般利用も増えており、平日でも止められないような状況も時々あると聞いている。調査データを見ても西原町の方からのモノレールの分担率が高いといった傾向も見られている。 - 全体版では、てだこ浦西に着目した分析も行っており、特徴としては、モノレールの終点でもあり車でのアクセスもしやすいことから、送迎やパーク＆ライドの利用が多いといったところが、好調を生んでいるようである。 - 今後、幸地 IC により高速との結節ができてくると、高速を利用した車とモノレールの結節により効果を上げてくるところを期待している。

発言者	主な指摘・意見	回答
沖縄総合事務局 開発建設部 伊藝幹事	- 資料４の中に、ロウワープラザという記載があるが、国道３３０号のライカムの向かいで大規模開発すると周辺の国道３３０号がかなり混雑することもあると想定される。まちづくりについては沖縄市や北中城村で検討されると思うが、広域的な公共交通や幹線道路に関しては自治体だけでは検討が難しいと思っている。 - 基幹バスルートでもあり、周辺の開発と関連する交通の関係を、開発が始まる前段階から考えていかないと、一層混雑する懸念もある。今後ロウワープラザについても、西普天間 WT みたいなものを作って検討していくことが必要になるのではないかと考えている。	(幹事長) 基地跡地に関しては広域構想の検討がはじまっているところである。ロウワープラザの件に関しては、担当部署にも伝えておく。
沖縄県商工会議 所連合会 福地代理	先週、東京の新橋、豊洲方面の東京 BRT を見てきたが、これら他地域の先進的な取組事例なども本協議会で紹介いただけたらと思う。	(事務局) 先進事例などの紹介もできるようにしていきたい。

以上